

「自然と友だち」 五感を使って感性豊かに

“命”を大切にしたいと思う心を
育てる

堺市

とみなみ保育園

また、茶の湯体験や和太鼓演奏など日本文化にふれる機会や異文化を知る機会も用意され、たくさん体験を通して子どもの育ちにつなげている園のようすが伝わってきました。



大きなたけのこにびっくり！
皮むきもしました

0、1歳は育児担当制、2歳はグループ制を導入し、心理的愛情関係の形成を大切に、より家庭に近い

環境づくりに取り組まれていて、子どもたちの安心感に包まれた笑顔が印象的でした。

3〜5歳の幼児の基本的な生活は「ファミリー（異年齢）で過ごします。年長児が年少児に穏やかに語りかけ、手を差し伸べている姿はとても微笑ましく、お家で過ごす兄弟姉妹のようでした。

月に数回フレンドデー（年齢別）やチャレンジデー（科学的概念・運動・表現などの選択制）も取り入れ、興味・関心から主体的に取り組める工夫がされている、大人もわくわくするような時間です。

「昼間の家庭のような温かい空間で飼育や栽培など自然にふれあひながら共生を感じ、思いやりや命を大切にすることを育んでいきたい。そのためにも私たち保育者がモデルとなることが大切」との海老澄代園長の言葉に強く感銘を受けました。

（編集委員 Y・T）



保育園を たずねて

503



大阪狭山市と堺市を分ける陶器山の山すそには閑静な住宅街です。門をくぐるとまず目に飛び込んできたのがぶどう棚。枝いっぱい、たわわに実るぶどうは今（9月上旬）が旬で、子どもたちも給食やおやつで味わっています。私も一粒いただきましたが、甘酸っぱくて、とても美味しかったです。

続いて「果樹の森」。レモン、さくらんぼ、ラズベリー、柿、キウイ、びわなどたくさん果樹が植えてあります。

宮武勲園長の「子どもたちに果物がどうやってできるのかを見せてあげたい」という思いが込められています。

かわいらしい遊具と砂場がある園庭の向こうには、広い公園が隣接しており、園庭同然に毎日行き来して遊んでいるそうです。

園舎に入ると元気いっぱいのあいさつで子どもたちが出迎えてくれました。

日々の保育にはオランダの保育をモデルとした理論を取り入れています。

子どもは主体性を引き出すため、保育者と子どもとの関係の絶妙なバランスを保つことが求められます。保育者は子どもに対して時には距離を置き、時には寄り添うことで、子どもの自己選択と自己決定を促します。そうした日々の積み重ねが、人間力を育んでいます。

時には受け身になりがちで子どもを英語圏で普及している「サークルタイム」と呼ばれる活動を通してサポートし、バランス良くその主体性を引き出しておられました。導入して5年目、お話を聞くとときは聞き、遊ぶときは創造的に遊ぶ。メリハリのある子どもを育んでおられます。



たわわに実ったぶどうが出迎える

子どもの主体性を引き出す 保育者の絶妙なバランス

たくさんの自然の恵みに
囲まれて

大阪狭山市

おおのだい
大野台保育園



主体的に遊ぶコーナー遊び

（編集委員 N・M）